

土砂災害(特別)警戒区域とは

●土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

崩壊等が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれのある区域

●土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

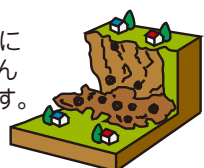
崩壊等が発生した場合に、住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれのある区域

土砂災害の知識

台風や集中豪雨、地震などにより、いろいろな土砂災害が予想されます。特に造成地や、河川敷、山岳地帯などでは、十分な警戒が必要です。土砂災害警戒情報に注意しましょう！

●がけ崩れ

急な斜面が大雨等によって緩み、とつぜん崩れ落ちる現象です。



●土石流

谷や溪流から、土砂や石、木を含んだ濁流が、すごい勢いで押し流される現象です。



●地すべり

比較的広い範囲にわたり雨水を含んだ土地が、ゆっくりと動き出す現象です。

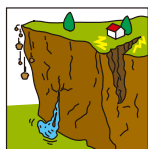


土砂災害が起こる前兆

土砂災害のほとんどは、梅雨や台風の時期に発生しています。長雨や大雨により地面に大量の水がしみ込み、弱くなった斜面が崩れるためです。それらの前兆となる現象を理解しておきましょう。

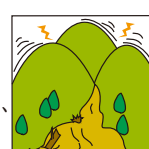
○がけ崩れの前兆現象

- ・がけから小石がパラパラと落ちてくる
- ・がけから水が湧き出る
- ・がけに割れ目ができる



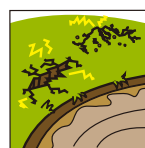
○土石流の前兆現象

- ・「山鳴り」といって、山全体がうなるような音がする
- ・川の流れが濁ったり、流木が混じっている
- ・雨が降り続けているのに、川の水が減っている



○地すべりの前兆現象

- ・井戸の水が濁る
- ・地面がひび割れたり、一部が陥没あるいは隆起する
- ・池や沼の水の量が急激に変化する



土砂災害時の避難のポイント

1. 土砂災害警戒区域や土砂災害危険箇所から、できるだけ早く外に出る。
2. 周囲の状況を確認し、できるだけ浸水していない場所を歩く。
3. 土石流の場合は、土砂の流れる方向に対してできるだけ直角に避難する。
4. 屋外への避難が困難な場合は、建物の斜面とは反対側の2階以上の部屋へ移動する。
5. 深夜など、外が暗くて避難することが危険な場合は、無理な外出をしない。



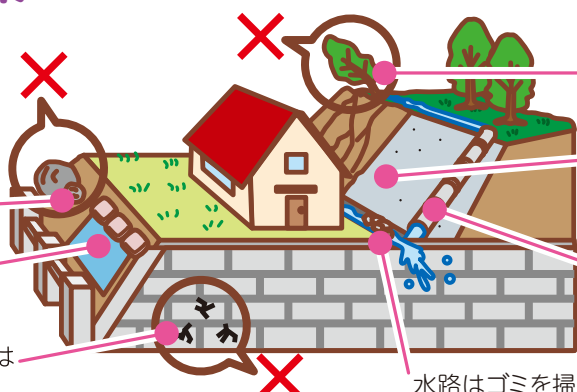
●土砂災害の予防策●

斜面の状態の変化に十分注意しましょう。

落ちそうな岩や土のかたまりは撤去する。

崩れそうな所は木や板の柵、石積をする。

こわれた石垣などは修理や補強を。



風でゆれる大きな木は地面をゆさぶられないよう枝を切る。

がけの危険な部分はビニールなどで覆い、雨水の浸みこみを防ぐ。

雨水をがけに流さないように水路を造る。

水路はゴミを掃除する。

マイ・タイムライン

風水害から身を守る！

「マイ・タイムライン」をつくってみよう！

チェック

ほかにも...
防災ハザードマップを確認しましょう！
避難するときに配慮が必要な家族や支援してくれる隣人などを考えてみましょう！

知って備える

住んでいる地区の災害リスクを知る

避難場所・経路を調べる

警報等の内容を調べてどんな行動をとるか知る

災害発生前後の情報収集方法を調べる

避難スイッチ

※前もって避難するタイミングを決めておこう。

[記入例] ●住んでいる地域：土砂災害警戒区域、○○川浸水想定区域

●避難場所：○○小学校 ●移動時間：30分 ●移動手段：徒歩

●避難開始のタイミング：高齢者等避難が発令されたとき

●情報収集先：ラジオのニュース、気象庁HP

●警戒レベル3で必ず避難 ●○○川の水位が○mを超えたら避難する 等

状況	警戒レベル	あなたの行動
災害発生 又は切迫	レベル5 緊急安全確保 (町が発令)	[記入例] ●避難が出来ない時は2階や崖から離れた部屋に移動
災害発生のおそれ高い	レベル4 避難指示 (町が発令)	●避難完了 ●ラジオ、携帯電話等で最新の状況を確認
災害発生のおそれ	レベル3 高齢者等避難 (町が発令)	●離れている家族や知人に避難することを連絡 ●避難場所へ避難開始
気象状況悪化	レベル2 大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁が発表)	●避難場所や交通手段を再確認 ●携帯電話の充電を確認
気象状況悪化のおそれ	レベル1 早期注意情報 (気象庁が発表)	●テレビやインターネットで天気予報をチェック ●非常用持出品を確認